

男女がお互いを尊重し、その人らしく生きる。
仕事も暮らしも楽しむ。
そんなあなたを応援する情報誌です。



特集

他人事ではない
これってDVなの？

P4

もしかしてデートDVかも？

P6

パートナーの「呼び名」考えてみました

P8

データ・ウォッチング
「30分未満」男性の家事時間

P9

世界の仕事・家庭・生き方
「韓国編」

P10

しんじゆく
ワーク・ライフ・バランスの星

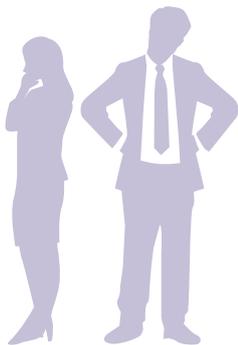
P11

インフォメーション
「若者のつどい」
「ここからまつり」
開催します

事例1

身体的暴力

外では人当たりも良く社会的地位も高い夫だが、家では殴る蹴るを繰り返す。友人や親に相談しても、「あんなにいい人が信じられない」「あなたにも悪いところがあるんじゃない？」と理解してもらえない。



事例2

身体的・精神的暴力

毎日夫から「ぐず」「役立たず」「死ね」と大声で怒鳴られる。やめてほしいと言うと、「誰に食べさせてもらっている」と殴られる。夫の気のすむまで何時間も怒鳴られたり殴られたりし、命の危険を感じることもある。

事例3

社会的・経済的暴力

夫の許可がないと外出させてもらえないので、兄弟や友達にも会えない。携帯電話の通話記録やメールもチェックされるので連絡すら取れず、いつも家に一人きりである。家計は夫が管理し、自由に使えるお金はない。

報道などで耳にするDV（ドメスティック・バイオレンス）。自分には関係ないと思っけていませんか。しかし、実際には女性の10人に1人が、深刻な被害を受けています。左の事例は、実際の話をまとめたものです。信頼し合えるはずの関係の中で起こるDVの恐ろしさは計り知れません。暴力は犯罪につながる行為であり、重大な人権侵害です。なぜ、ひとはパートナーに暴力を振るうのか。防げることができないのか。もし、暴力を受けたら、身近で起こったら、どうすれば良いのか。ともに考えてみましょう。

DVの実態

配偶者間の犯罪被害(男女別)

被害者の9割は女性です。(殺人82件、傷害2503件、暴行3500件)

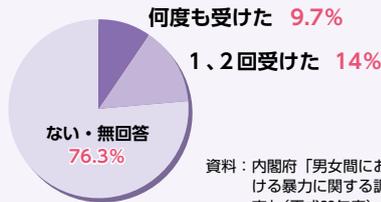


女性93% 男性7%

資料：内閣府「配偶者からの暴力に関するデータ」(平成27年)より作成

DV被害を受けた女性の割合

女性の4人に1人が何らかの暴力を、10人に1人が何度も受けています。

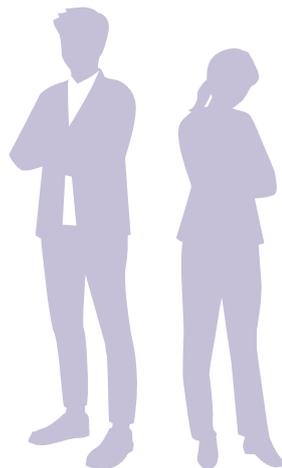


資料：内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成26年度)

殴る、蹴るだけではないDVとはどんなこと？

DVとは配偶者や恋人など親密な関係にある(あった)相手から振るわれる暴力のこと、被害者の多くは女性です。殴る、蹴るといった「身体的暴力」のほか、「精神的暴力」「性的暴力」「経済的支配」「子どもを利用した暴力」「社会的暴力」などさまざまな形態があります。多くはいくつかの暴力が重なって起こり、長期化、エスカレートしていきます。家庭という密室で起こり、被害者は誰にも相談せず我慢したり、世間体を気にして隠したりするため、なかなか表面化してきません。

また、当事者自身がDVと気付かない場合や、配偶者からDVを受けている事実を認めたくないという心理も働き、被害が深刻化してしまいます。親密な関係の中で繰り返される暴力は、被害者の人格を深く傷付け、生きる力をも奪います。



DVにはさまざまな形態があります

身体的暴力

殴る、蹴る、髪を引っ張る、噛みつく、引きずりまわす、物を投げつける、病院に行かせないなど

精神的暴力

大声でどなる、暴言を吐く、殴るふりをして脅す、何を言っても無視する、電子メールによる嫌がらせなど

性的暴力

嫌がっているのに性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要、見たくないポルノビデオを見せるなど

経済的支配

生活費をわたさない、外で働くことを禁じる、金銭的自由を与えないなど

子どもを利用した暴力

子どもに危害を加えると言って脅すなど

社会的暴力

人前で侮辱する、交友関係等を制限する、行動を監視するなど

DVをより知るために Q&A

Q 夫婦喧嘩とDVの違いは?

A 夫婦喧嘩は対等な関係の中で起こるものごとであるのに対し、DVは力の強い者が暴力を用いて力の弱い者を支配する点にあります。

Q 被害者にも非があることも?

A 仮に被害者に非があったとしても、暴力を振るっていい理由にはなりません。DVが一般的な暴力と違うのは、被害者が「自分が悪いから」と思い込まれてしまうことです。加害者は「家事が下手だった」「教育をしてやってあげただけ」と自分の暴力を正当化します。多くの場合、明確な理由がなく、思い通りにならないことをきっかけに始まります。

Q 加害者のタイプは?

A 明確なタイプはなく、年齢、学歴、職業、収入もさまざまです。人当たりが良く、職場や地域では人望がある加害者も少なくありません。暴力容認、男尊女卑の考えを持っている人が加害者になりやすい傾向があります。

Q 逃げようと思えば逃げられるのでは?

A 子どもを置いていけない、経済的に困難、実家に逃げても連れ戻される、連れ戻された後に今よりもっとひどい暴力をふるわれると考えると逃げたくても逃げられないというのが実態です。

Q もし、相談を受けたら?

A 被害者が相談するのは、とても勇気のいることです。被害を打ち明けられたら、相手の立場になって話をしっかり聞いてあげましょう。そのうえで、あなたは悪くないと伝え、専門の相談機関を紹介してください。

「力」とは身体的な力、経済的な力、社会的な力(地位・信用)をいいます。一般的に男性の方が女性より力を持っているのが社会の現状で、被害者に女性が多いのはそのためです。さらに、DVを後押ししているのが、男性より女性を低く見る、妻は夫に従うべきといった女性蔑視や男尊女卑の考えです。また、「夫婦間であれば手をあげるくらい、ある程度は仕方ない」など暴力を容認する社会通念も大きな要因です。しかし、男女格差や社会的要因があるうとも、暴力を振るう理由にはなりません。たとえ夫婦間であっても暴力は許されるものではありません。

子どもに与える影響も深刻で、日常的に暴力を見て育った子どもは心理的虐待を受けているのと同じ状態にあるといわれます。そのため情緒不安、摂食障害、不登校になるなどの例も少なくありません。また、DVを受けた親が心の行き場を失くし、自分の子どもを虐待するという事件もあります。さらに、子どもは暴力を解決の手段として用いることを覚え、大人になつたときに、加害者や被害者となるといったDVの世代間連鎖が生じる可能性が指摘されています。

DVは決して一部の人の問題ではありません。DVを根絶するには、暴力を容認しない社会を築いていくことが大切であり、男女が対等でお互いを尊重し合える関係を築いていくことが必要です。専門の相談員が専用電話で相談をお受けします。相談は無料、区内在住、在勤、在学の方。匿名でも差し支えありません。その他にも相談窓口があります。詳しくは5ページを参照してください。

女性へのDVはなぜ起る?

DVは、相手を自分の思い通りに支配するために、さまざまな暴力を行使することで、長期にわたり反復的に行われることが特徴です。その背景には、「力」の差があるとされています。

「力」とは身体的な力、経済的な力、社会的な力(地位・信用)をいいます。一般的に男性の方が女性より力を持っているのが社会の現状で、被害者に女性が多いのはそのためです。

さらに、DVを後押ししているのが、男性より女性を低く見る、妻は夫に従うべきといった女性蔑視や男尊女卑の考えです。また、「夫婦間であれば手をあげるくらい、ある程度は仕方ない」など暴力を容認する社会通念も大きな要因です。

繰り返しされるDV被害者への影響は?

日常的に繰り返されるDVは、心身の健康状態や日常生活に深刻な影響を及ぼします。暴力がいつ振るわれるかわからないことへの緊張や恐怖感から、頭痛、動悸、不眠、吐き気などのPTSD(心的外傷後ストレス障害)、うつ状態、自殺願望なども見られます。

子どもに与える影響も深刻で、日常的に暴力を見て育った子どもは心理的虐待を受けているのと同じ状態にあるといわれます。そのため情緒不安、摂食障害、不登校になるなどの例も少なくありません。また、DVを受けた親が心の行き場を失くし、自分の子どもを虐待するという事件もあります。

あなたは悪くない みんなで取り組もう

暴力は犯罪であり、DVは個人の尊厳を脅かす重大な人権侵害です。DVを受けていることを恥じたり、自分を責めたりして、一人で抱え込んでいる被害者も少なくありません。もし、DVを受けていると気付いたら、一人で悩まずに専門機関に相談してください。

新宿区では被害者支援の充実を図るため、平成29年10月から「DV相談ダイヤル」を設置しました。専門の相談員が専用電話で相談をお受けします。相談は無料、区内在住、在勤、在学の方。匿名でも差し支えありません。その他にも相談窓口があります。詳しくは5ページを参照してください。

恋人同士でも起きている もしかしてデートDVかも?



DVは大人だけの問題ではありません。
「デートDV」は高校生や大学生な
どの若い世代の恋人間で起こる暴力の
ことを言います。内閣府の調査では、
10人に1人が10代・20代のころに実際
相手からデートDVを受けたことがあ
ると答えています。

デートDVとは?

左のリストにある行為は、すべてデ
ートDVにあたります。暴力の形態や
DVが起こる構造も配偶者間のDVと
ほとんど変わりません。

ただし、恋人同士の場合、DVを嫉
妬や愛情表現だと思ひ込み、大人以上
に気付くことが難しいのです。

新宿区男女共同参画に関する中学生
の意識・実態調査(平成28年)では、
半数以上が「デートDV」という言葉
を聞いたことがなく、「何を言っても
無視する」「服装を指示する」などの

こんな経験
ありませんか?

- ☑すぐにメールの返信をしないと怒る
- ☑携帯の着信・発信履歴を勝手にチェックされる
- ☑誰と行動するか連絡するように命じられる
- ☑急に機嫌が悪くなったり、優しくなくなったり気を使わされる
- ☑怒ると物にあたるなど、怖いと思う態度をとる
- ☑ばか、頭が悪いなどと暴言を吐かれる
- ☑自分の意見に従わないと、怒り出す
- ☑避妊を嫌がり、性行為を強要する
- ☑バイトをさせられたり、物を買わされたりする
- ☑大切なものをわざと壊す

行為をデートDVであると認識してい
る中学生は4割ほどでした。

若い人たちの場合、性行為によって、
相手が自分のものになったと思ひ込ん
で支配と依存が始まり、デートDVに
つながっていく傾向があります。「束
縛するのは愛しているから」「怒る
のは甘えているから」と交際を続ける
うちに、別れられない状況に陥ってし
まい、被害が深刻化してしまします。

周囲が気付いてあげる

例えば、「不安げにメールばかり気に
している」「学校を休むことが多くな
った」「心から笑うことが少なくなっ
た」「不審なあざが目立つようになっ
た」などの様子に気付いたら、デート
DVかも知れません。次の注意点を守
って話を聞いてあげてください。きつ
かけが難しいようなら、この記事を目
につくところに置いておきましょう。

◆あなたは悪くない、心配しているこ
とをきちんと言葉にして伝える。
◆問い詰めたり、頭ごなしに交際を批
判したりしない。
◆DVの正しい知識を持ち、感情的な
思ひ込みで判断しない。
◆学校や相談機関と連携する。

DVの被害者・加害者に ならないために

デートDVも社会の構造と密接にか
かわっています。男は強くてたくまし
いほうがいい、女はおとなしく控えめ
のほうがいい。こうした社会でつくら
れた「男らしさ」「女らしさ」に縛ら
れてしまうと力の差が生じてしまい、
DVの温床が生まれます。

DVの被害者・加害者にならないた
めには対等な関係を築くことです。誰
もが自分らしく生きる権利があります。
本当の愛とは相手を尊重し、支え合え
ること。こうした関係を大人たちも示
していかなければなりません。

DVは暴力を行使する 男性の問題です

信田 さよ子
臨床心理士・原宿カウ
ンセリングセンター所長



のぶた・さよ子

お茶の水女子大学大学院修士課程修了。1999
5年、原宿カウンセリングセンター開設。依存
症、DV、虐待などに悩む本人や家族へのカウ
ンセリングを行う。著書に「加害者は変わる
か?」(ちくま文庫)など。

DVは男女が不平等な社会で起き
ます。女性からの暴力もありますが、
男性からの暴力と同じに語ることは
できません。カウンセリングの場
で女性たちの深刻な被害を知ると、
加害者男性に目を向けなければ真の
問題解決にはならないと考え、被害
者支援の一環として加害者プログラ
ムに取り組みようになりました。

変わるべきは加害者

加害者プログラムでは、暴力が収
束し、再発がなく被害者の安全感が
高まることを目指し、加害者は暴力
の責任は自分にあること、暴力によ
らない行為をどう実践するかなどを
学びます。

実は被害者の多くは、別れて全て

DVかも？ 一緒に考えてくれる人がいます！

まずは
相談を！



新宿区

新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル

☎03 (5273) 2670

月～金 9:00～17:00
(祝日・年末年始除く)

新宿区立男女共同参画推進センター

悩みごと相談室

面接相談予約

☎03 (3341) 0801

電話相談 (女性相談員)

☎03 (3353) 2000

月～土 10:00～16:00 (15:30まで受付)
(祝日・年末年始、12:00～13:00除く)

男性相談員による電話相談

☎03 (3341) 0905

土 13:00～16:00

新宿区生活福祉課相談支援係 女性相談

☎03 (5273) 3884

月～金 8:30～17:00
(祝日・年末年始除く)

東京都

東京ウィメンズプラザ

☎03 (5467) 2455

毎日 9:00～21:00

(年末年始除く)

東京都女性相談センター

☎03 (5261) 3110

月～金 9:00～20:00

(祝日・年末年始除く)

☎03 (5261) 3911

(夜間・休日のみ)

警察

☎110番

(最寄りの警察署生活安全課でも相談できます)

相談後受けられる支援の一例

- 住民票を自分以外の人に見せないようにすることができます
- 心身の不調をケアする機関につなげます
- 仕事を開始する、または継続するためのお手伝いができます
- パートナーと離れるために、避難するお手伝いができます
- 法的な解決を目指すために、裁判所への保護命令などの申立てなどを支援します

DV根絶へ 私たちがすべきこと

一人ひとりが暴力や嫌がらせに敏感になることです。未だに「愛の鞭」と称した体罰を容認する風潮があります。誰ひとり受けていい暴力などありません。

暴力は連鎖します。社会の暴力性が高まったとき、家庭内の暴力も増えると考えられています。ベトナム戦争後、アメリカではDVや児童虐待が急増しました。加害男性の中には、DVを見て育った人が少なくありません。暴力の連鎖を断ち切るためにも、DVにさらされている子どもにはケアが必要であることを、おとなは認識しなければなりません。

暴力はなんの解決にもならないと知り、本当の男女平等社会を実現することが、DVのない社会には不可欠です。

私たちは自分の役割や、シチュエーションによって、呼ばれ方が変わります。また、相手によって意識して変えている時もあります。

例えば、パートナー間では「ママ・パパ」、「名前」、「愛称」で呼んだり、他人の前では「主人」「家内」と言ったり、他人からは、「ご主人」、「奥さん」などと呼ばれたりします。

呼び名は、関係性や親密度、相手を思う気持ちをはかる尺度になります。

長年、慣れ親しんでしまうと、自分の呼び名も気にならなくなるものですが、他人から呼ばれる際や、他人のパートナーをどう呼ぶかは、意外と気になるものです。

編集委員が行ったアンケート調査から調べてみました。

パートナーの

「呼び名」

考えてみました

あなた

おたく

かみさん

女房

主人

彼

だんな

うちの

つれ

お母さん

おばあちゃん

うちの

おじいちゃん

パパ

専

嫁

相方

きみ

夫

奥さん

亭主

ママ

パートナーは「名前」で呼んでいる

パートナーの呼び名で一番多かったのが、意外？いや当然の結果？「名前」でした。次いで「パパ・ママ」。これは回答者の約7割が30代の子育て世代だったことも関係しているのかもしれない。名前前で呼ぶときは、「ちゃん」などの「敬称」を付けた呼び方が22名中11名、「呼び捨て」が11名でした。

パートナーから「名前」で呼ばれている

反対にパートナーからどう呼ばれているかでは、やはり「名前」が多く、次いで「パパ・ママ」でした。名前では、「呼び捨て」が「敬称付」より若干多く、女性の回答者が多いことから、男性のパートナーから呼ばれる際には、「ママ」と呼ばれる時もあるけど、名前前で呼び捨てにされることも多いようです。

やはり「名前」で呼ばれたい

では、本当はパートナーから、どう呼ばれたいのでしょうか。呼ばれたい呼び名とその理由を聞いてみました。

ずば抜けて多かったのは「名前」でした。その理由として多かったのは「親しみを感じる」で、「うれしい」「尊重されている感じがする」「名前は大事だから」などもありました。

意外だったのが、女性の回答者に「ママ」と呼ばれたい人は一人もいなかったのに対し、男性には「パパ」と呼ばれた

い人もいることで、その理由の一つは「最近パパになったから」という微笑ましい回答もありました。

不快に感じる呼び名も

一方で、違和感のある呼び名では、

「(ご)主人」「ママ・パパ」「おまえ」「妻」「嫁」などでした。「特になし」という回答もあり「呼び名」に意味を感じている人が一方で、気にしないという人もいました。

違和感の理由はさまざまで、

あなたは、配偶者（パートナー）からどう呼ばれていますか？

第1位 名前 24名
 (「呼び捨て」15名、「敬称付」9名)

第2位 ママ・パパ 15名

第3位 お父さん・お母さん 9名

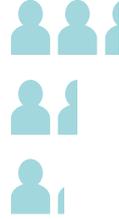


あなたは、配偶者（パートナー）をどう呼んでいますか？

第1位 名前 22名
 (「呼び捨て」11名、「敬称付」11名)

第2位 ママ・パパ 15名

第3位 愛称 11名



配偶者（パートナー）の呼び名で、違和感のある呼び名はありますか？

第1位 (ご)主人 11名

第2位 ママ・パパ 4名
 おまえ 4名

第3位 妻 2名

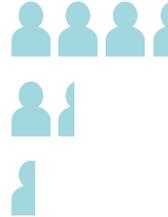


あなたは、配偶者（パートナー）から、どう呼ばれたいですか？

第1位 名前 34名
 (「呼び捨て」22名、「敬称付」12名)

第2位 愛称 13名

第3位 パパ 6名



【回答者】区内在住・在勤の女性43名、男性20名、不明5名、その他1名／配偶者有51名、配偶者無18名
 ※配偶者には、婚姻関係にないパートナーも含む／年代は10代～80代 ※全て複数回答

- (ご)主人
 「ご主人と召使みただから」「仕えないから」「対等な関係に思えないから」「主人の漢字に違和感がある」
- ママ・ママ
 「妻であって母でないから」「歳が歳だから」
- おまえ
 「下にみている」「大切にされてない気がする」「がさつな印象を受ける」
- 妻
 「周りで妻と呼んでいる人が少ないため」
- 嫁
 「家制度に基づく呼び名で、時代にそぐわない」

たかが呼び名、されど呼び名 呼ぶ前にちょっと考えて

自由意見では、他人の配偶者を呼ぶときの呼び名に戸惑いを感じるという意見が多くありました。

公共の場では「おとうさん・おかあさん」「おじいちゃん・おばあちゃん」「だんなさん・おくさん」など配偶者や家族ではない人から呼ばれることに抵抗があったり、本来の意味よりもマナーを重んじてあえて「ご主人」「奥さま」と呼んだりしている人もいて、適切な呼称が生まれることを希望している人が多くみられました。

また、「家内」という言葉は「時代遅れ、現状に即していない」という意見などもありました。女性を輝く社会[®]では、将来、死語になっていくのかもしれない

ません。教育の現場では男女混合名簿となり、男女とも「〇〇さん」と呼ぶようになって久しいですが、社会にでると不平等な社会の現状が呼び名にも現れていきます。

言葉は「生き物」です。本来の意味と違う使い方がされてしまうこともありま。たかが呼び名、されど呼び名です。

パートナー間や他人に対して、違和感がないか、適切か、自分の感覚や考え方をふまえて使ってみませんか。

こんな意見もありました

- ◆場所や相手に合わせて呼び名を考えたい
- ◆自然な感じがすれば何でもいい
- ◆幼稚園のママ友と互いに呼ばれた名前を申告して呼び合っていた
- ◆ふだん、意識していない
- ◆TVレポーターが年配の方に対し「おとうさん」と呼びかける(自分の父ではないのに)
- ◆しつくりくる呼び名がなく、結婚するとき話し合って「夫・妻」にした
- ◆「パートナー」が浸透したらいいと思うが、今は使うのが恥ずかしい
- ◆呼び方でその人の性格や考え方をみる傾向がある
- ◆失礼のないように「ご主人さま」「奥さま」と呼ぶことに葛藤がある
- ◆旧姓との使い分けに困ることがある
- ◆職場では「旧姓」にこだわるが、それ以外は呼ぶ側の自由でかまわない
- ◆呼び名によって自分が変わらぬのでも構わない



女性の1日の家事時間4時間19分に対し、男性は1日平均30分未満。欧米諸国の中でも極めて少ない時間です。

イクメンに続き、カジダン（家事を積極的にする男性）という流行語が生まれたにもかかわらず、実際の男性の家事参加は進んでいないのが現状です。

なぜ、家事時間は増えない？

理由は主に2つあげられます。一つは、長時間労働のため「時間」そのものがないことです。

週49時間以上働いている男性労働者の割合は、欧米諸国が10%台であるのに対し、日本は30%と突出しています。特に30代〜40代男性の割合が最も高く、週60時間以上働く男性はおよそ15%にもほります。

もう一つは、「男は仕事、女は家

夫婦の家事時間国際比較（1日あたり）

国	夫の家事時間	妻の家事時間
ノルウェー	1:59	3:09
スウェーデン	2:14	3:19
ドイツ	2:01	3:53
フランス	1:50	3:52
イギリス	1:46	3:47
アメリカ	1:44	3:10
日本	0:28	4:19

資料：内閣府男女共同参画局
6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連（1日あたり、国際比較）より作成
日本の数値は平成23年「社会生活基本調査」より作成

仕事と違い無償労働ですが、これがおろそかでは、健康でいきいきと暮らすことはできません。夫が家事をひととおりでできれば、妻が病気になることとしても、支障のない生活を送れます。平均寿命が延びた今、老後の一人暮らしも安心です。男性の家事参加は、生活的自立の問題でもあります。

そのほか家事をすることで、段取り力・マネジメント力が鍛えられる、オンとオフの切り替えになるなど、仕事にも役立つメリットがたくさんあります。

そして何より男性の家事時間が増えれば、女性の負担が減り、仕事と家庭の両立がしやすくなるだけでなく、社会的・経済的に女性が活躍するための大きな力になります。

どう進める家事分担

とはいえ、どう取り組んだらよいか、戸惑う人も多いのではないのでしょうか。

完璧でなくても、男性はまずは自分の生活の基本の一つとして家事に取り組んでみる。女性も抱え込まず、曜日を決めるなどして男性に家事を任せることから始める。生活に根ざした男女平等を子どもたちに伝えるためにも、それぞれが性別役割分担意識の垣根に気付き、家事分担の見直しから始めてみてはどうでしょう。

男性が家事をする意義

とかく、私たちは仕事よりも家事を軽く見てしまいがちです。家事は

本の紹介

『あなたがもし 残酷な 100人の村の村人だと知ったら』 江上治／経済界



美しいイラストに惹かれて手に取ると、弱者に厳しい村の現状に打ちのめされる。村は借金まみれ。仕事に就いても給料が安く、結婚もできない。年金も期待できず、老親の介護に追われる。まさに日本の現実を100人の村にたとえてあぶり出しています。

著者はみんなでのこの国を変えていこうと訴え、資本や所有の考え方やお金に縛られない生き方を提案します。自分と日本の将来を考えたい、若い世代に読んでほしい一冊です。

『トランスジェンダーの心理学』 佐々木享子／晃洋書房



トランスジェンダーとは産まれた時に決められた性ではなく、より自分らしいと思う性を生きる人です。人々の性別意識がどのように芽生え、育まれていくのか。3歳から26歳までの3300組以上の双子と、500人以上の当事者への大規模な統計調査をもとに、遺伝と環境の両方の視点から考察しています。

性別は固定されたものではなく、多様で流動的です。当事者への理解だけでなく、これまでの性別に対する価値観に変化が起ります。

『手のひらの砂漠』 唯川恵／集英社



物語は、夫からの暴力に身の危険を感じた妻が逃げるところから始まります。周りにはDVを理解して支えてくれる人もいれば、立ち入りたくないという人も。妻が逃げるだけでは解決しないことに気付いていく過程と、加害者である夫の心理状態がリアルに描かれています。決断する妻の行動は、勇気を与えてくれます。

重いテーマですが、スピード感溢れる文章で一気読みます。女性の自立に何が必要なのかを考えさせてくれる一冊です。



世界の仕事・家庭・生き方

国が変われば事情も変わる。
韓国出身の崔星太（チエソン）さん、李珉貞（イミンジョン）さんご夫婦にお聞きしました。



—日本に来たきっかけを教えてください。

崔 国費留学生として来日しました。現在は韓国企業の日本支社でエンジニアをしています。妻とは日本で知り合い結婚しました。



李 日本の文化と日本語に興味があり、日本の大学に進学してそのままこちらで就職しました。現在は

は中学校で理科の教員をしています。

—韓国との男女平等意識の違いはありますか。

李 今はあまりないと思います。韓国では女性が声をあげることによって世の中が変化してきたと思います。日本と比べると韓国の女性の方が声は大きいかなと思います。

崔 儒教の影響もあって昔は男女差別がもっとあったと思いますが、国の政策もあり、今は

男女平等意識が根付いてきていると思います。日本の男性は家事・育児に関わる時間が非常に少ないのですが、韓国ではどうですか。

崔 韓国も同様で、長時間労働が問題となっています。縦社会で上司が絶対という雰囲気があり、残業が当たり前になりがちです。でも最近では、週に1日定時退社日を設ける企業

もあり、積極的に関わる男性が増えているようです。韓国の私の兄も土日はできるだけ家事・育児をするようにしています。

—日本の子育て環境が良いと思うところはありますか。

李 日本は児童館など無料で遊べる施設が多いですね。韓国では教育熱心な家庭が多く、小学生になるとほとんどの子が放課後は塾に通います。お金もかかり、送迎も大変です。日本のような学童クラブがあるといいですね。

—韓国では男性の兵役がありますが、国民はどのように受け止めているのでしょうか。

崔 国を守るためという意識があるので、兵役に服することに違和感はありません。

李 そうですね。以前より兵役期間は短くなり

「男は軍隊に行つて一人前だ」という考えも薄れてきていると思いますが、「行かなければならない」という意識は昔と変わっていないと思います。ただ、息子がいたら「行つて欲しくないけど、行かせなければならぬ」というジレンマが生まれると思います。

—それぞれ感謝していること、大事にしていることは何でしょうか。

李 夫は忙しいのに早く帰ってきて、疲れている時もさっと家事をすませてくれます。感謝の気持ちを伝えることを大事にしています。

崔 妻はがまん強いと思います。大変なときも揺るがない。私に助けられていると思つてくれるところに感謝しています。

—新宿区のイメージは住んでみてどうですか。李 住みやすいですね。外国人が多く、区役所

男女平等事情

の職員の方も対応に慣れている人が多いですね。行政のサービスも他の区と比べると導入や変更が早いと思います。

—仕事の目標や将来の夢をお聞かせください。

李 教員として、教え子が成長していく姿にやりがいを感じます。人に良い影響を与えられるような人になりたいです。

崔 子どもの手本となる大人でありたいと思います。仕事だけでなく、家族を含め周囲の人を幸せにしたいです。

韓国では、民主化とともに女性政策が進んできました。1995年に女性発展基本法が制定、2001年には女性政策や男女差別防止に取り組む女性部が発足。政治参画では男女候補者が半々のクォータ制を導入

女性議員の増加に大きな効果を上げており、2016年の女性議員（下院）の割合は17.0%と、日本（9.3%）を上回っています。とはいえ、国際的には日本同様、男女格差は大きく、男女平等度（ジェンダー・ギャップ指数）は世界116位です。



扶蘇山城
写真提供：韓国観光公社

新企画スタート!

仕事も生活も
輝いて

しんじゅく ワーク・ライフ・バランスの星

柔軟な働き方で
キャリアアップ



橋本 和世さん

株式会社日本レーザー
営業本部販売促進部長

- 2000年 出産、産休
- 2001年 パート勤務にて復帰
- 2002年 夫の転勤により長野に転居、契約社員として在宅勤務
- 2009年 夫の転勤により神奈川県に転居、引き続き在宅勤務
- 2011年 株式会社インデコ 会社都合により契約終了
- 2012年 地元市役所 嘱託職員 (週2~3日勤務)
- 2012年 株式会社日本レーザー入社 (週2日パート勤務)
- 2013年 嘱託社員契約 (週3日在宅ワーク)
- 2016年 正社員契約(1時間時短勤務)

「とくに高い意識をもって仕事を続けてきたわけではないですが…」
快活な笑顔が印象的な橋本さん。家族の事情に合わせて働き方を変えつつ、現在は新宿区内の会社で営業本部販売促進部の課長を務めています。責任ある職を気負わず全うする橋本さんには、自分らしいワーク・ライフ・バランスの基軸がありました。



海外出張にて取引メーカーとの会食

時短を活用、食事は家族で
もう一つ、求められて応えられる機会があるなら断らないようにしようと決めています。今の会社に入社したのも、元の上司が声をかけてくれたことがきっかけです。

通勤に2時間かかるので、夕食に間に合うように今は短時間で4時半に退社しています。TODORISTを活用し、家事

仕事を続けてきた事実をつくる

キャリアアップよりも、継続を心がけてきました。出産、育児、夫の転勤があった中で、離職を考えたことはなかったです。辞めてしまえば、マイナスからのスタートになるからです。どんな仕事でもいいので仕事をしてきた事実をつくるのが大事だと思い、子どもが小さいうちは在宅で続けてきました。

は朝に集中、朝食は家族みんなで手伝わてるようにしています。家事や家族との時間も大切にしたいので、個人の生活に合わせて柔軟に対応してもらっているのでありがたいです。保育園の送りがあるので30分遅く出勤する男性社員もいます。
評価される喜び
時には大きな仕事をやり遂げたあとで、また次が始まると思うと後ろ向きになることもあります。仕事を続けられるのは、評価される喜びがあるからです。夫は、「私以上に喜んでくれますし、子どもも「仕事をしているお母さんは素敵!」と言ってくれます。力をもらっています。

5年後の自分を見据えて

自分らしいワーク・ライフ・バランスのコツは、自分で優先順位を決めて取り組むこと。自分で決めて選択したことなら言い訳せずにできます。

職場には自分にはないさまざまなスキルを持つ人がたくさんいます。刺激を受ける日々ですが、1年に一つ、できることを増やそうと決めています。5年後の自分の見える景色はきっと変わってくると思います。

橋本さんは天真爛漫な女性



上村 浩之さん
常務取締役
営業本部副本部長

橋本さんは、とにかく明るく天真爛漫で、女性社員のムードメーカーです。いつも明るく、周りに元気を与える存在です。主婦業、子育て、仕事、全てに全力投球。仕事面ではいつも前向きで、一緒に仕事をして楽しいと思わせてくれる存在です。

タイムスケジュール

平日

- 2時 起床
- 入浴、洗濯・料理(3食分)など家事
- 5時 子どもを起こす 家族で朝食、片付け、身支度
- 6時10分 出勤
- 8時半~16時半 会社(打合せ、PCでの作業など)
- 19時 帰宅
- 夕食、台所周りや洗濯ものなど片付け、就寝準備
- 21時 就寝

土曜日

- 6~8時 起床
- 朝食、入浴、洗濯
- 10時 1週間分まとめたの買い物
- 11時 昼食、片付け。のんびり
- 16時 洗濯片付けや簡単な掃除
- 17時 常備菜や食材の下処理などずっと台所
- 21時 入浴
- 22時 就寝



若者のつどい 2017

若者のつどいは、20歳代から30歳代を中心に、出会い、交流しながら、夢と希望をもって未来を切り開く力を持てるよう、若者を応援し、元気を引き出すイベントです。7回目の開催となる今回も新宿の魅力を含め込んだ屋内フェスとして大いに盛り上げます。ご家族・友人等お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

【日時】 12月9日(土) 午後1時~4時45分(午後0時30分開場予定)
【会場】 新宿文化センター(新宿6-14-1)
【問合せ】 男女共同参画課(荒木町16、男女共同参画推進センター)
 ☎03(3341)0801 FAX03(3341)0740

【主な内容】

- **大ホール** 区内で活動する団体やアイドルによる熱気あふれるステージ等をお届けします。
- **3階小ホール** 新宿の歴史をテーマとしたトークショー、展示等。普段は聞けないディープな新宿の歴史トークが聞けるかも?
- **4階会議室** 新宿の地場産業等の紹介とビジネスシーンお役立ち講座等の開催
- **1階・2階ロビー・大ホールホワイエ** 行政情報ブース、区内で活動するNPOブース、有名ファイナンシャルプランナーによるマネー講座のほか、新宿と縁のある自治体の紹介や特産物販売、人気カフェの協賛によるカフェコーナー
- **地下1階展示室** 専門学校生によるハンドマッサージやネイル体験、女性に圧倒的人気を誇る“あの”雑誌に連載中の人気占い師による占いコーナー等



昨年のゲストと区長



今年出演予定者(一部)

第7回 ここ・からまつり を開催します

♪みんな集まれ、つながる笑顔

年々地域に定着してきたここ・からまつりの季節です。毎年恒例の企画もあれば、新たな取組みもあり、多種多様です。施設をよく利用されている方、毎年ここ・からまつりを楽しみにくださっている方はもちろん、初めての方も、きっと楽しんでいただけます。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております!

【日時】 11月12日(日) 午前10時~午後3時まで(雨天時は内容を一部変更)
【会場】 新宿ここ・から広場(子ども総合センター、しごと棟、マザアス新宿、多目的運動広場等)
【主な内容】

- **多目的運動広場**
 - ・ふれあい動物園(ウシ、ウサギ、ヤギ、アヒル等の動物たちと遊べるコーナー)
 - ・鉄砲組百人隊試射(写真左下)
 - ・わくわくステージ「ポコピカソン」(写真右下)
 - ・ここ・から広場にマスコットキャラクター集合(同くん、新宿シンちゃん、あつまらくん、シルバーくん、ふらっとくん等)
 - ・盛りだくさんのアトラクション
 - **子ども総合センター・しごと棟・マザアス新宿**
 - ・中高生によるバンド演奏
 - ・お話の世界(乳幼児向け)
 - ・ダンスパフォーマンス
 - ・介護用品の展示・販売
 - ・茶道体験
 - ・3Dプリンターのデモンストレーション
- その他、屋台広場(焼きそば、フランクフルト等)、施設探検スタンプラリー、ゲームコーナー、体験コーナー等もあります。



【問合せ】 子ども総合センター管理調整係 ☎03(3232)0673

交通

都営大江戸線・東京メトロ副都心線
 東新宿駅から徒歩7分

都営大江戸線
 若松河田駅から徒歩10分

JR山手線
 新大久保駅から徒歩16分

都営バス
 新宿ここ・から広場前停留所から徒歩1分
 宿74 新宿駅西口-東京女子医大
 橋63 小滝橋車庫-新橋駅(大久保駅前・新大久保駅前経由)
 飯62 小滝橋車庫-都営飯田橋駅(大久保駅前・新大久保駅前経由)



写真提供:野口健事務所

開催のお知らせ

日時

平成30年2月17日(土)
午後1時30分~4時

会場

四谷区民ホール

内容

ワーク・ライフ・バランス推進優良企業表彰式
野口健氏(アルピニスト)
講演ほか

なくそう! 暴力

パープルリボン運動を知っていますか?



区民の皆さまの協力により作成した
パネル(28年度)

パープルリボンは、女性に対する暴力根絶を訴える啓発活動の象徴です。11月25日は国連の定める「女性に対する暴力撤廃国際デー」で、紫のリボンを身につけて運動への賛同を表明します。日本では、それに先立つ11月12日~25日を「女性に対する暴力をなくす運動期間」として、さまざまな活動が行われます。

特にDV、売買春、人身取引、セクシャルハラスメント、ストーカー行為などは、女性が被害者になることが多く、人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

一人ひとりが暴力について正しく理解し、「お互いを尊重しあう意識」と「暴力は許さないという意識」を持つことが大切です。

【問合せ】男女共同参画課 ☎03(3341)0801

お知らせ これから開催する講座

☆育児ママの再就職準備講座

踏み出そう! わたしらしく働くために

日時: 11月9日(木)、11月16日(木)、午前10~午後3時、
全2日(申込受付中)

会場: 四谷保健センター(三栄町25)

講師: 氏家祥美/ファイナンシャルプランナー、尾形圭子
/人材育成コンサルタント、内田ひとみ/㈱ハグリス代表取締役

☆DV防止啓発講座

リベンジポルノとデートDV

日時: 12月16日(土)午後2時~4時
(11月17日(金)申込受付開始)

会場: 男女共同参画推進センター(ウイズ新宿・荒木町16)

講師: 渡辺真由子(メディアジャーナリスト)

詳細は「広報しんじゅく」でもお知らせしています。申し込み、問い合わせは男女共同参画課☎03(3341)0801へ。



発行 新宿区子ども家庭部男女共同参画課
新宿区立男女共同参画推進センター
〒160-0007 東京都新宿区荒木町16番地
TEL03(3341)0801 FAX03(3341)0740

発行日 平成29年10月31日



この印刷物は再生紙を使用しています。

128号の編集を終えて

男女共同参画ってどんなこと? 情報誌の編集ってどんな仕事? 好奇心で参加してみたら知らないことばかりで、新しい体験にワクワクしました。一方、特集で取りあげたDVの実態にはとても心が痛みました。DVの背景には、昔ながらの価値観や社会の風潮があります。DVや虐待、いじめなどのない、誰もがいきいきと自分らしく暮らせる社会に変えなければいけないと思います。(岩田弥生)

DV、配偶者の呼び方など、家族や社会とのつながりが深いテーマでした。少子高齢化が問題の今、孤立しやすい状況が問題を助長させているのを感じます。今回、アンケート調査では、いろいろな人に協力を呼びかけました。改めて、夫婦や親の顔が見えたのが新鮮でした。多くの人が違った視点で同じテーマを考えていくことが、他人事ではない社会の問題を解決する糸口になるのではないのでしょうか。(相宅志保)

わかっているつもりだったり、触れることがためらわれて言葉にしにくかったりと、生活の中で曖昧にしていることがあります。特に、DVは、声を上げることでまた自分が傷つくような気がしていました。それは単によく知らなかったからに過ぎませんでした。今まではどうであれ、誰もがいきいきと生きていいのだからと思える人がもっと増えて欲しいと願っています。(木村桂子)

DV。好き合っているもの同士だからと見過ごされるのなら、一番プライベートな環境が無駄地帯だということです。つらい、痛いという感覚は、自分を守るための危険信号。悪いことをしてしまったと悩むより、とりあえず少しでも誰かに助けを求めてください。それはあなたたちの仲を裂こうとするものではありません。(栗田寛子)

DVが遠くのどこかではなく、今、この社会で起きているのだと実感しました。複雑で、デリケートな部分をはらんでいる問題です。だからといって、それを理由に目をつぶってしまうは永遠に闇の中。社会にとって大きな損失です。身近なこともそうでないことも、社会の問題として捉えることが、そこに暮らす私たちの責任なのでは。(坂本萌)

新宿区はいろいろなバックボーンを持った人が集まっていて、多様性を受けとめることのできる懐の広いまちだと思います。そんな新宿区民になって7年、仕事と育児の日々にプラスして地域に関する活動をしたという気軽な気持ちで編集委員として参加しました。この活動を通して培った経験や知識を自分のワーク・ライフ・バランスの実現に活かせればと考えています。(林敦子)

今回は「ドメスティック・バイオレンス」というデリケートで重い話題を取り上げました。“力”に訴える従来の「DV」だけではなく、SNS時代に入り「DV」の手段・方法は多様化しています。この誌面で取りあげた話題について、皆さまに少しでも考えていただくきっかけを提供できたなら幸いです。(古川絵里)

編集後記

だれもが生きやすい社会をつくるために、暴力は絶対に許されません。私の周りにはない、と否定することなく、身近にもあるかもしれない意識すれば、些細な兆候に気付くことができるようになるでしょう。今号がその一助になれば、と編集委員がこの難しい課題に取り組みました。ぜひ、感想をお寄せください。

表紙写真

今号から、新宿区内の企業でワーク・ライフ・バランスを実践する方を紹介する新企画がスタート。第1回はキャリアの継続例を取りあげました(表紙左下)。

